

## 7. 感染症学研究室

### 1) 千葉県感染症情報センター (感染症学研究室内)

感染症法に基づく千葉県基幹感染症情報センターとして千葉市地方感染症情報センターの協力を得て、千葉県における感染症発生情報の収集、解析、提供、公開を行っている。

2007年4月1日感染症法の一部が改正され、第1類(7疾患)、第2類(4疾患)、第3類(5疾患)、第4類(41疾患)、第5類全数把握(14疾患)、第5類定点把握(28疾患)に分類されている。

第1類から第5類の全数把握についてはそれぞれの発生時に全医療機関から、また第5類定点把握については定点指定医療機関(小児科134定点、インフルエンザ215定点、眼科36定点、性感染症43定点、基幹10定点(2007年12月31日現在))から毎週それぞれの患者合計数が健康福祉センター(保健所)へ報告される。これらの報告は千葉県および千葉市でそれぞれ集計され、NESID(オンラインシステム)を用いて国立感染症研究所(中央感染症情報センター)へ報告される。

千葉県感染症情報センターでは、毎週「千葉県の感染症情報」として保健所および定点報告医療機関等へFAXで提供し、また県民へはインターネットホームページで公開している。この事業内容については千葉県結核・感染症発生動向調査委員会において検討が行われる(19年度は6月21日、9月20日、12月20日、3月13日の計4回開催された)。

(1) ホームページ「千葉県の感染症情報」<http://www.phlchiba-ekigaku.org>の概要は以下のとおりである。

- ・週報：第5類定点把握感染症の当該週の発生状況及びコメント、当該週までの過去5年間の発生状況グラフ、

管轄保健所別年齢別疾患報告数

- ・月報：第5類感染症定点把握の一部(性感染症定点、基幹定点の一部)の発生状況
- ・各感染症の分類
- ・各感染症の概要「医師から都道府県知事等への届出のための基準」
- ・インフルエンザ情報
- ・麻しん情報
- ・感染症関連機関へのリンク
- ・1999年第1週(1月)からの月報・週報のPDFファイル
- (2) 千葉県における2007年(1月から12月)の感染症報告数について、第1～5類全数把握感染症を表1に、第5類定点把握感染症を表2に示した。
- (3) インフルエンザ情報

今シーズンのインフルエンザは2007年第46週の定点あたり報告数が1.5となり、1987年の感染症発生動向調査開始以降では最も早く流行が始まった。その後、一旦報告数が減少した後、2008年第5週に流行のピークを迎えたが、この時の定点あたり報告数は14.2で、過去10シーズンと比較すると2000/01年シーズンの8.6に次いで低い値であった(図1)。また、2007年第47週から2008年第16週までの迅速診断による型別ではA型が22,591件(95.3%)、B型が860件(3.6%)でA型主流であった(図2)。なお、ウイルス研究室が行ったウイルス分離結果ではAH1が89.0%、AH3が8.9%、B型が2.1%でAH1型が主流であった。過去4シーズンの迅速診断による型別報告数では、A型は年によって報告数に増減があるものの毎年流行がみられているが、B型はここ4シーズンでは隔年の流行となっている(図3)。

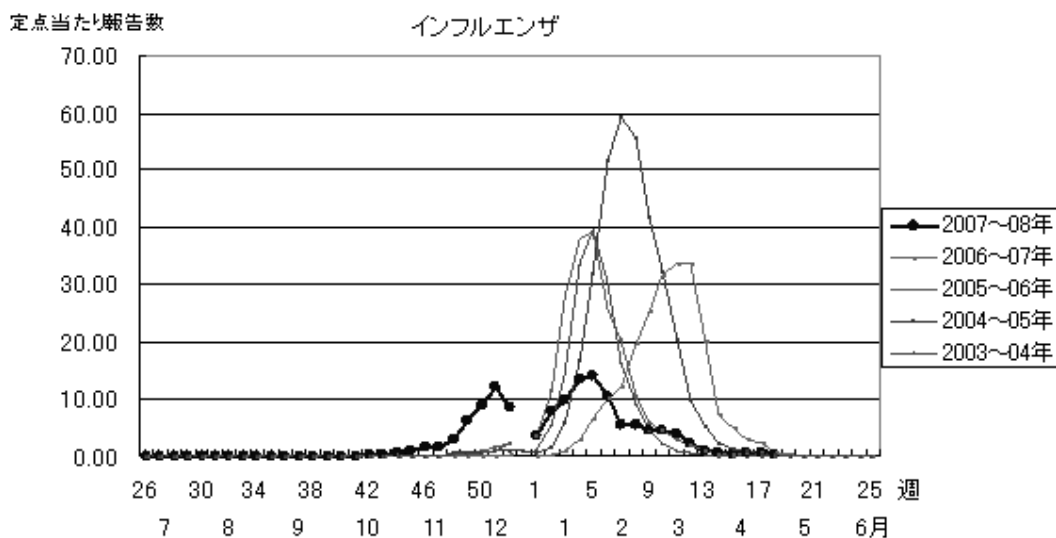


図1. 5年間の定点あたり報告数の推移

表1 一類～五類全数報告疾患の報告数

類 型	疾 患 名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
一類感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0
	南米出血熱	—	—	—	—	0
	ペスト	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0
二類感染症	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0
	結核	—	—	—	—	1043
	ジフテリア	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る）	0	0	0	0	0
三類感染症	コレラ	0	6	6	5	2
	細菌性赤痢	24	41	55	70	46
	腸管出血性大腸菌感染症	98	137	137	128	178
	腸チフス	3	4	3	5	2
	パラチフス	2	6	1	2	1
四類感染症	E型肝炎	0	1	1	1	0
	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	4	4	4	6
	エキノコックス症	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	1	0
	オムスク出血熱	—	—	—	—	0
	回帰熱	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	?	?	?	?	0
	Q熱	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	1	—	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	0
	ダニ媒介脳炎	—	—	—	—	0
	炭疽	0	0	0	0	0
	つつが虫病	19	17	29	39	46
	デング熱	1	1	15	8	9
	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	0
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	4	0	0	1
	日本脳炎	0	6	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0
	鼻疽	—	—	—	—	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0
	ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	0
	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	0
	発しんチフス	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0
	マラリア	0	1	2	4	3
	野兔病	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	—	—	—	—	0
	類鼻疽	—	—	—	—	0
	レジオネラ症	1	1	4	15	19
	レプトスピラ症	0	2	0	0	0
ロッキー山紅斑熱	—	—	—	—	0	
五類感染症	アメーバ赤痢	23	34	21	37	34
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	11	7	7	4	1
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	0	6	12	19	16
	クリプトスポリジウム症	0	54	0	1	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	6	11	7	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	2	1	9	4
	後天性免疫不全症候群	42	56	49	48	58
	ジアルジア症	2	13	0	2	4
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	1
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0
	梅毒	8	12	10	18	25
	破傷風	2	4	5	7	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	1	3	0

定点の種類		疾患名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
週報	小児科定点	RSウイルス感染症	27	159	301	479	<b>634</b>
		咽頭結膜熱	1418	2560	1280	2735	<b>1492</b>
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10622	10844	9491	13522	<b>11633</b>
		感染性胃腸炎	40392	37193	35810	44609	<b>36272</b>
		水痘	9500	12066	10934	9918	<b>9866</b>
		手足口病	6482	4574	2801	2147	<b>6191</b>
		伝染性紅斑	1749	3579	1905	3168	<b>4097</b>
		突発性発疹	5241	4921	4492	4359	<b>4545</b>
		百日咳	59	96	85	225	<b>440</b>
		風疹	152	198	59	40	<b>51</b>
		ヘルパンギーナ	5914	4839	6644	5844	<b>3687</b>
		麻疹(成人麻疹を除く)	623	72	34	91	<b>368</b>
		流行性耳下腺炎	2541	7452	9275	5104	<b>2126</b>
	インフルエンザ定点	インフルエンザ	48536	32203	69160	39143	<b>52483</b>
	眼科科定点	急性出血性結膜炎	58	79	50	52	<b>98</b>
流行性角結膜炎		1475	1296	1257	1272	<b>1322</b>	
基幹定点	細菌性髄膜炎	10	13	4	8	<b>12</b>	
	無菌性髄膜炎	28	13	10	15	<b>35</b>	
	マイコプラズマ肺炎	91	84	71	163	<b>67</b>	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	53	22	38	18	<b>19</b>	
	成人麻疹	12	2	0	5	<b>24</b>	
月報	基幹定点	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	490	421	1145	730	<b>466</b>
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	786	1080	503	471	<b>508</b>
		薬剤耐性緑膿菌感染症	12	9	16	14	<b>10</b>
	S D T 定点	性器クラミジア感染症	1305	1370	1283	1177	<b>1071</b>
		性器ヘルペス感染症	310	338	419	428	<b>341</b>
		尖形コンジローマ	257	242	244	191	<b>202</b>
		淋菌感染症	473	476	429	381	<b>340</b>
		その他の非淋菌性尿道炎	841	893	983	1276	<b>1085</b>

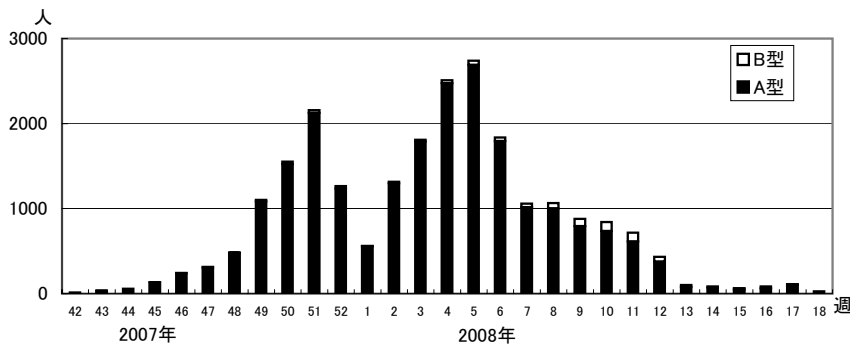


図2. 迅速診断報告数

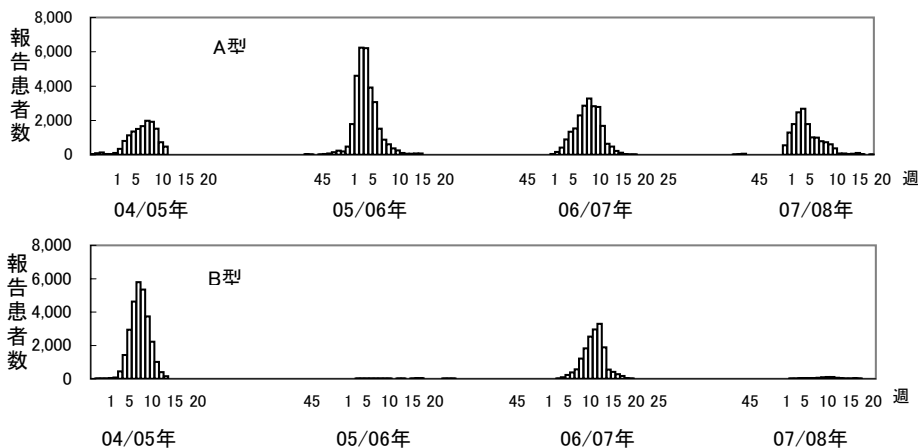


図3. 過去4シーズンの迅速診断による型別報告数  
上段 A型、下段 B型

(4) 麻疹情報

千葉県では2007年4月より「千葉県麻しん対応指針」および「千葉県麻しん対応マニュアル」に基づき医療機関及び学校等からの麻しん患者の全数報告を政令指定都市である千葉市を除く県内全域で開始し、千葉県感染症情報センターでその集計を行った。

2007年4月から2008年3月までに医療機関からは1,589

名、学校等からは1,810名の麻疹患者報告があった。4月末から患者数は増加し5月にピークとなり6月以降減少した(図4, 5)。年齢別報告数(医療機関からの報告)では0-1歳、7-8歳、12-15歳、18-19歳にピークがあり小学生から高校生に相当する7-18歳が53%を占めていた(図6)。地域では習志野、市川、印旛、船橋市の順に多かった(図7)。

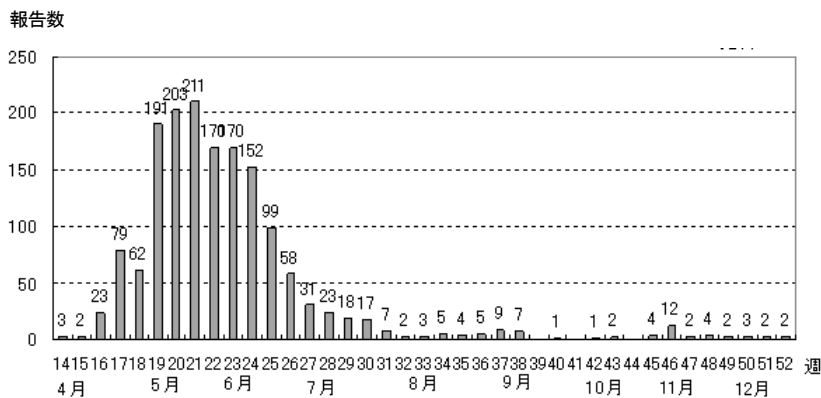
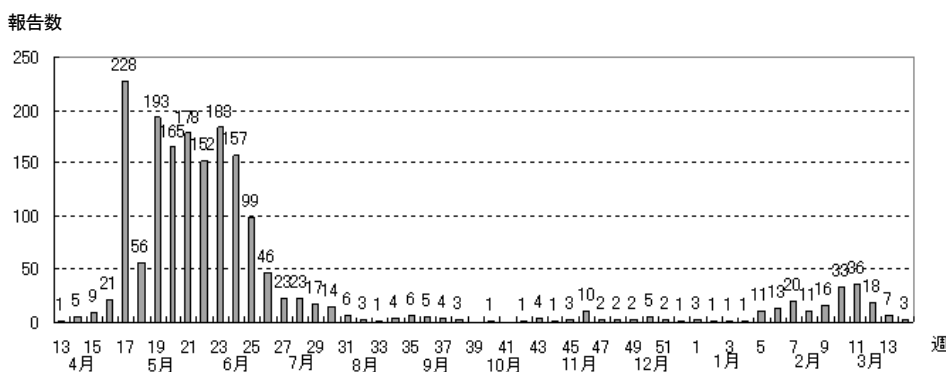


図4 麻疹全数報告数の推移 (医療機関からの報告)



## 2) 感染症集団発生時の疫学調査業務

千葉県内での感染症集団発生時、健康福祉センター（保健所）、疾病対策課、衛生指導課、薬務課あるいは健康危機対策室などから要請があった場合、疫学調査に関する助言および調査に必要な情報の収集、解析、提供を行っている。

## 3) 健康危機事案発生時の情報共有システム事業

健康危機対策の強化のため「健康危機事案発生時の情報共有システム事業」を健康危機対策室が行っている。この事業は健康福祉センター（保健所）が対応した健康危機事例の情報を県庁、健康福祉センター（保健所）、衛生研究所で共有するためのメーリングリストである。提供された情報を一覧表として整理し、毎週1回メーリングリスト参加者に情報提供した。2007年度は668件（内第1報事案は349件、残り319件は第2報から完結事案）の報告があった。

## 4) 健康危機対策研修会

健康福祉センター（保健所）の感染症・食中毒担当者研修を対象とした研修会に講師を派遣し、健康危機対策基礎研修会（6月1日、5日：県庁本庁舎大会議室）および健康危機対策疫学研修会（9月25日、12月14日：都庁舎総務部情報政策課研修室）を行なった。